卒業の日に 贈る言葉

困難と試練を乗り越えた卒業生の皆さんへ

中央大学学長
河合　久
KAWAI Hisashi

この春、中央大学学士の学位記を手にされる卒業生の皆さんに対し、本学在籍中の研究、文化、スポーツ、ボランティア等の様々な分野での活躍をたたえますとともに、中央大学の卒業を心からお祝い申し上げます。おめでとうございます。

また、ご子女に対し、惜しみない支援と応援を送っておられるご家族・ご関係の方々には、敬意を表しますとともに、我が事のように本日をお慶びのこととご拝察いたします。

さて、本年度の卒業式を迎えるにあたり、本学では式典を開催する事の意義を十分に認識した上で、実施に向けて準備してまいりました。

卒業式は、大学にとっても、学生の皆さんにとっても、かけがえのない行事です。門出を迎えた卒業生の皆さんを祝福すべく、対面形式をもって学位授与が行われたことを、学長として安堵と感慨深い思いを抱かずにはいられません。

皆さんの学生生活の半分以上は、国や行政の対応に沿ったとはいえ、授業がオンライン型を中心とせざるを得ず、各種の学修、サークル、ボランティア等の活動も制約されました。学生の皆さんも、私たち教職員も、その時の情勢により出来得る活動を模索し、見直しや再構築を重ねながらの実施を試みてきました。

同時に、このコロナ時代を生き抜く方策として「新生活様式（ニューノーマル）」が提唱され、ウィズコロナ時代にも通用する発想の転換力や創出力が身についたのではないかと思われます。

また、多様化の時代を迎え、私たち人類は、従事する当面の仕事や得意分野にこだわらず、異分野との融合、そして、まったく新しい人間関係や組織間の有機的相互関係をもって、新たな世界を共創していく時代に直面しています。

中央大学で学び、今日ここに手にした学位を胸に、学生生活から得た成果を確認し、それを新たな世界に価値あるものとして実装できるよう心掛けていただくことを、心から期待しています。そのことこそが本学のユニバーシティメッセージである「行動する知性。」を、ご自身によって体現することになるからです。

結びに当たり、皆さんには、中央大学の卒業生であるという誇りをもって、これからの人生を堂々と歩まれることを祈っております。くれぐれも健康に気を付けて、元気にご活躍されることをお祈り申し上げます。卒業おめでとうございました。

「学士（法学）」の重みとその価値

法学部長
猪股 孝史
INOMATA Takashi

卒業生の皆さん、ご卒業、まことにおめでとうございます。皆さんに心よりお祝いを申しあげます。そして、この晴れの日を迎えるまで、卒業生の皆さんをよく理解し、寄り添ってこられた、ご家族の皆さん、ご関係の皆さんにも、祝意と敬意を表したく存じます。

中央大学は、1885（明治18）年、「英吉利法律学校」として創立されました。同年９月19日、江東中村楼で行われた開校式において、福澤諭吉は、以下のような祝辞を述べたと伝えられます（本学名誉教授・金原左門「『法の実地応用』をふりかえって」中央評論296号〔2016年〕17頁）。

「法律は社会のあらゆる領域に及ぶものであり、法律は人間生々の学であり、多くの法律家が養成されることが期待される。成業の上、官吏・代言人になることだけが重要なことではない。そんなに沢山の官吏・代言人を社会が必要にしているわけでもないからである。諸君には官吏・代言人にならなくとも、その知識を様々な事業に適用して、一身を護り、一家を護り、屹然たる独立の男子となることを希望する。注意すべきことは、法律を学んで容易にこれを用いないことである。昔封建時代には、刀を抜いて犬を切る者は未熟な若武者に限る、真成の武士は終身刀を抜かず、抜けば必ず敵を切りて誤らずと言ったものである。諸君もこれに学び、（妄りに法知識を振り回すことなく、）法律を以て犬を切ることなく、常日頃は黙して法理を言わず、法知識を使うときは法の敵を斃し、自分の権利栄誉を護るべきである。法律学徒がどちらの途を歩むかは、学識が深いか浅いかによる。学生の皆さんの学問が深くなることを期待する。」

この趣意は、卒業生の皆さんにも献じられてしかるべきものを含みます。ここで語られている言葉は、その当時の事情を考慮しても、現代からみればいささか穏当さに欠ける憾みがないではありません。けれども、その真意をしかと酌むならば、法を学び、法を学んだ者の心映えを見事に看破しているように思えます。

卒業生の皆さんは、中央大学法学部所定の課程において、法学、政治学を修めたことの証として、「学士（法学）」の学位を授与されました。皆さんの学問は深くなったものと拝察します。福澤諭吉がその祝辞に込めた趣意、そして「学士（法学）」のもつ重みとその価値を心に深く刻みつつ、卒業生の皆さんが、それぞれの進路や環境においてご発展、ご活躍されることを心から願って、はなむけの言葉とします。

非難ではなく批判のできる人として

経済学部長
佐藤 拓也
SATO Takuya

ご卒業おめでとうございます。皆さんの大学生活は、そのかなりの期間において、新型コロナウイルス感染症によって多くの犠牲を強いられるものとなってしまいました。困難の中でも学修や学生生活を続け卒業されていく皆さんに、あらためて敬意と祝意を表します。

３年前の春、皆さんが大学生活の密度を上げていこうとしていた矢先に、国は、法的根拠も科学的根拠も曖昧な一斉休校を小中高等学校に要請しました。多くの大学も、長期の出校停止やオンライン授業という対応を続けました。私は、教育を担う者の一人として、この間のコロナに対する国や大学の対応が、皆さんの貴重な学生生活の権利の保障という観点から見て正しかったのかどうか、今からでも真摯に振り返るべきであると思っています。

ここで皆さんにお願いしたいのは、こうした現実に直面した時、これを「非難」するのではなく「批判」できる人になってほしいということです。よく「あの人は他人の批判ばかりする」などと言う時、そこでは批判と非難がほぼ同義に使われています。しかし、批判と非難は違います。非難は、他人の過ちや欠点をあげつらい、問題の責任を責め立てることです。これに対して、批判とは、その問題状況を分析し、原因や事態の本質を明らかにして、何よりも、それを絶対的に動かし難いものと見るのではなく、それを乗り越えて、時には変革さえしようとする態度のことです。

大学の研究者の仕事は、社会現象や自然現象、またその先行研究を対象にして、上のような意味での批判をする仕事です。皆さんは、研究教育機関である大学で学問を修めました。ですから、これから自分の属する職場や地域、社会で様々な問題に直面した時に、非難ではなく、大学で身に着けた批判を試みて下さい。動かないと思っていた状況や環境が、乗り越えうるものであることに気付くことも、きっと出てくるはずです。

また、きっちり批判のできる人は、人生においていざ困難に直面した時でも、自分がダメな人間だから問題が起きていると捉えるのではなく、客観的な事実の中に問題の原因や本質を見出すことができるはずです。これを分析して明らかにしようとする批判的な態度は、きっとこの先、自身をポジティブにし、精神衛生上の助けにもなってくれるはずです。

皆さんが、健全な批判的精神を持って大いに活躍されることを、心より願っています。

ご卒業おめでとうございます

商学部長
井上 義朗
INOUE Yoshio

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。晴れてこの日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、ご家族様をはじめ、これまでの長い年月つねに寄り添い、支えてこられた多くの皆様方にも、心よりお祝い申し上げます。

今期卒業される皆さんは、新型コロナウィルス感染拡大の影響を受け、通常とは大きく異なるかたちの大学生活を余儀なくされました。キャンパスへの入構が制限され、オンライン授業の受講や部活動の制限、あるいはオンラインによる白門祭の開催など、これまで誰も経験したことのない厳しい状況のなかで、大学生活をおくられました。本年度は、ほぼすべての授業を対面形式にもどすことができましたが、皆さんは大学生活の多くの部分を、本来とは異なるかたちで送らざるをえなかったと思います。

それでも皆さんは、そうした状況に屈することなく、立派に学業を修めて、今日の晴れの日を迎えられました。どうぞこの期間の努力と経験に自信と自負をもって、新しい世界へと羽ばたいて行ってください。

昔、ある経済学者がこんなことを言いました。「人はなぜ未来を予測できると考えるのか。それは、未来といえども過去の延長上にあると考えるからだ。では人はなぜ、未来を予測したいと考えるのか。それは、未来は過去の単なる延長ではないと考えるからだ」。皆さんがこれまで大学で学んできたことは、皆さんの未来にかならずや豊かな果実をもたらすことでしょう。大学で教わったときは、よく意味がわからなかったことも、そのときが来れば、先生方がなぜあれほど力をこめて講義をしたのか、その意味がはっきりとわかるはずです。そういう瞬間に、皆さんはこれから何度も遭遇すると思います。大学で過ごした日々が、かならずや皆さんの未来を、しっかりと支えてくれるでしょう。

他方で皆さんの未来は、皆さん自身で作らなければならないものです。大学生活でできたこと、できなかったこと、いろいろな思いがあることと思います。それらをひとまとめにして、未来はまた一から自分で作ることができるのです。もちろん、他の人びととの関わりや、周りの人びとへの配慮を忘れることはできません。皆さんは大学生活を通じて、こうした事柄の大切さについても、多くを学んだことと思います。

どうぞ大学生活の思い出を糧に、思い切り張り切って、自分らしい未来を築いて行ってください。

皆さんの門出を祝して

理工学部長
梅田 和昇
UMEDA Kazunori

中央大学を卒業する皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心よりお祝いいたします。

皆さんの中央大学での人生は、コロナ禍に翻弄されましたね。それでも、ようやくコロナ禍の終わりやコロナとの付き合い方が見えてきたことは、喜ばしいことですし、皆さんが新たな環境での人生をスタートする上での僥倖だと思います。

卒業に至るまでには、皆さんの多くが、卒業論文、ゼミ論文、あるいは大学院生でしたら修士論文、博士論文の執筆で大変な努力、苦労をしたことと思います。満足の行く研究成果は出ましたか？立派な論文は書けましたか？十分な成果を出して大きな達成感を覚えている方は、本当に良かったですね。

一方で、残念ながら十分な結果が出せず、悔しい思いが残った方も多いと思います。それは勿論残念なことではありますが、落ち込む必要はありません。皆さんが苦労を重ね、全力で頑張ったことそれ自体が、皆さんを大きく成長させ、皆さんの今後の糧になってくれます。コロナ禍で色々大変な思いをしたことも含め、中央大学で学んだこと、経験したことは、皆さんの将来の大きな拠り所となってくれます。自信を持って、前を向いて、次の人生のステージに踏み出して下さい。

皆さんへのはなむけの言葉として、「自分を大切にして下さい、そして想像力を持てる人になって下さい」と言わせて頂きます。これは、他人への思いやりを持ち、他人を大切にすることにもつながります。社会の中で皆さんには是非活躍して欲しいと思いますし、皆さんにはその資質も能力もチャンスもあると思いますが、それと同時に、是非善き人でいて欲しいと願っています。

卒業は、別れの時でもあります。これまで慣れ親しんだ環境や、親しい仲間とも離れることになります。仲間とは是非卒業後も親交を温め続けて欲しいと願っています。また、社会に出ると、新たな出会いも色々ありますが、その中には、きっと中央大学の卒業の方々もいらっしゃると思います。是非中央大学のつながりを生かして、皆さんの今後の人生をより豊かなものとして欲しいと思っています。

皆さん、改めまして卒業おめでとう！

たったひとりで／ともに創る、よき人生の旅を！

文学部長
新原 道信
NIIHARA Michinobu

これから“たったひとりで異郷／異教／異境の地に降り立つ”皆さんへ。長いようで短かった学生生活が終わり、これから新たな社会生活が始まることに、少しだけ不安な気持ちになっているかもしれません。その皆さんに伝えたいことがあります。「あたりまえ」だったものを失うことは悪いことばかりではありません。ひとは、異郷／異教／異境の地で、はじめてものを考えます。慣れない環境での居心地の悪さも、「何かを考える環境として、そう悪くないのかな」と自分に言い聞かせ、新たなことに驚嘆する気持ちと探求心を持ち続けるようにしてください。

働き始めれば、理不尽なこと、不条理なことにぶつかり、実社会で生きることのたいへんさを感じるかもしれません。しかし、ない袖はふれません、私たちは、自分がどう生きてきたかに縛られるところがありますが、他方で、そのかけがえのない個々の体験に根ざした強みを持ってもいます。学生時代、何の意味があるかもわからず、やみくもに、ひたむきにやっていた「汗かき仕事」――予期しないことが次々起こり、途方にくれ、仲間と議論し、時にぶつかり、「卒論や報告の後の生ビールの最初の一口の味だけ覚えている」という感覚をふと想い出すことがあるでしょう。すでにやるとはなしにやっていた探求や探究の時間、不思議なことに出会い、驚き、驚嘆し、好奇心や遊び心で、つらさやたいへんさを忘れた瞬間――過去の自分からの「贈り物」の範囲でしか、意味あることは出来ないところがあります。

大学も最初、皆さんにとって異郷／異教／異境の地だったはずです。その地で、様々な先生や先輩や同級生や街のひと、異なるタイプの様々な他者に出会い、汗をかき、いつしかともに（共に／伴って／友として）創ることを始めたはずです。社会のなかで、うごき、ながされ、もがいているとき、どうか想い出してください。ただひたすら悩み、立ち止まり、さまよった日々を。そこからの智恵をつかみ直してもらえればと思います。

“変転の時代”を生きていくことになる皆さんへ。これから本当にたいへんな時代を生きていくことになります。誰も「解決策」など持っていません。社会の「観客」ではなく「プレーヤー」として汗をかくしかありません。生身の現実というフィールドで、全身で全時間、ワークすることが現実となるのです。だからこそ、“驚きと遊び心と探求心”を大切に、どうかよき人生の旅を！

自分の頭で考え、自分の足で歩け

総合政策学部長
青木 英孝
AOKI Hidetaka

卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。また、ご家族をはじめ皆様をこれまで支えてこられた方々にも謹んでお喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、2年生の時から、学生生活の大半をコロナ禍で過ごすこととなってしまいましたが、当初は不慣れだったオンライン授業への出席も、その後は日常の一部となり、さらには就職活動もオンライン併用の中で乗り切ってきたことと思います。皆さんには、世の中の変化への対応力があるということです。中大で“實地應用ノ素”を養ったわけですから、こういった不確実性が大きな時代にこそ、身につけた基礎力をいかして、しなやかに、力強く生きていって欲しいと思います。ユニバーシティメッセージは“行動する知性”。ゼミ生には“自分の頭で考え、自分の足で歩け”と言ってきました。批判はするが自ら動けない人ではダメ。他人から言われたことだけをこなす指示待ちでもダメ。自分で考え、自分で行動すること。自立した大人であることが求められると思います。

学生生活を振り返ると、ゼミでの卒業研究、試験やレポート、リサーチ・フェスタなど、学びの場はたくさんあったと思います。多くの本を読み、先生やゼミ生と議論し、論理的思考力を鍛えられたでしょうか。スポーツや文化活動では、トレーニングで体を鍛えるとともに、音楽や美術、映画や演劇などに触れることで、心を豊かにし、感性を磨けましたか。また、サークル、アルバイト、ボランティアなど、キャンパス外でも貴重な社会勉強ができたのではないでしょうか。

総合政策学部では、学際性と国際性をベースに、社会問題への理解と問題解決の手法を学んだと思いますが、文化や価値観の多様性を実感できたでしょうか。異文化理解力はグローバル化する社会で大きな価値を発揮し、複眼思考は多様化する社会できっと役に立ちます。ダイバーシティが求められる今、学際性と国際性の力は、相手の立場に立って考えることや、相手を認めて許容するといった、人として本当に大切な姿勢に反映されてくるはずです。皆さんが手にした学位記は中央大学で学んだ証です。中大卒業生としての自覚と自信をもって、新しいフィールドでも益々ご活躍ください。

余談ですが、先日ゼミ生と初任給どうするトークをしました。ぜひ、皆さんをこれまで支えてきてくれた大切な人に、感謝の気持ちを伝えてください。普段から何気なく感謝していても、気持ちを素直に伝えられる機会はさほど多くないかもしれませんので。

Congratulations on your Successful Graduation from Chuo University

国際経営学部長
中迫 俊逸
NAKASAKO Shun-itsu

On behalf of our faculty members and office staff of Faculty of Global Management, Chuo University (GLOMAC), I would like to congratulate all the people who graduate from Chuo University this March.

At GLOMAC, we are proud of having our first graduates. Our first GLOMAC graduates are the last students, who entered GLOMAC in the Heisei Era and the first students who graduated from GLOMAC in the Reiwa Era.

To all of our new graduates, please remember that Chuo has been focusing on "Knowledge into Action." Since most of you are going to work at some organizations, we wish that you will remember what you had learned at Chuo and will apply them into practice.

You may have some hopes to be realized. If you are serious in realizing your wishes, you need to keep spending energy and time in order to obtain your wishes and you need to make others, your bosses, your colleagues and so on, to actually understand that you have been keep trying to achieve your goals. Just having experience is not enough. You need to read books and journals to catch up with the current and future conditions. Obtaining new and unnoticed knowledge and information will help you open your mind and perspectives. Attending seminars or going to a graduate school may be able to help you to have a better future.

Friends you made and people you had contacted at Chuo will be one of the valuable assets for you. Please remember that you are not alone. You are supported by a lot of people including your guardians, relatives, friends, and people you had met at Chuo. A person to seek your better future is mainly you, an individual, but I would like to focus again that you are not alone and a lot of people around you will be able to support you. Good luck and please enjoy your new life.

〈唯一無二〉な一期生の新たな旅立ちを祝す

国際情報学部長
平野　晋
HIRANO Susumu

国際情報学部一期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。学部創設・運営の責任者として、この日を迎えることができたことを心中よりお喜び申し上げます。

思えばiTLの開校に向けた検討を関係教職員と共に開始したのは、2017年12月4日でした。その後も連日連夜遅くまでiTL開設を準備し、検討開始から通算して僅か１年4か月後の開校を目指しました。開校迄のリードタイムの短さから、学内では「拙速である」との指摘も一部聞かれました。

そして挙行された第一回入学試験では、61倍もの志願者からの支持をいただいた上に、その難関に打ち勝った一期生の皆さんを2019年4月にお迎えすることができました。ほぼ四半世紀ぶりに新学部を開校できたこの大成功は、「兵は拙速を尊ぶ」という孫子の格言になぞられました。この文脈に於ける「拙速」の含意は、決してネガティブな意味ではありません。寧ろ、時宜を逸するよりも、機動力によって機を逃がさない姿勢を意味していました。iTLは、AIやメタバース等の、次々と発生する新興技術を学び、かつその欠点から人々を素早く防護できる人材育成を目指す学部ですから、孫子の格言はiTLに相応しい誉め言葉であると捉えるべきでしょう。

そしてこの度、その一期生たる皆さんの卒業を無事に迎えることができました。大学業界においては、一期生の卒業をもって「完成年度を無事終えた」と評されます。ですから皆さんの卒業は、私達関係教職員にとって一つのミッションをコンプリートさせた証であり、かつ望外の喜びなのです。他方、皆さんにおかれましては、学部の先輩がまだ誰もいない、日本では正に〈唯一無二〉なiTLを進学先に選択してくれたことに感謝申し上げます。加えて、卒業後もiTLにて修得した能力を社会の為に行使し、かつご活躍いただくようにお祈り申し上げます。

最後に皆さんの卒業に向けて、有名なアメリカの法学者ロスコウ・パウンドの言葉をお伝え致します。それは私の第二の母校 ――第一の母校はもちろん中大ですが―― たるコーネル大学ロースクールの模擬法廷に掲げられていた以下の文言です：

"Law must be stable and yet it cannot stand still."
法はぶれてはいけないが、止まることもできないのである。

同様に、皆さんがiTLを卒業した事実は、決してぶれることのない、「情報の仕組みと法の統合知」を有する能力の証です。ですが皆さんがここで立ち止まることもできません。コーネル大では卒業式を "commencement" と呼んでいるように、卒業は次のステップへの「始まり」です。皆さんも、ぶれることのない能力を十二分に活かして、止まることなく就職や大学院進学などの次のステップの「始まり」を歩み出して下さい！